



2025 Asian Rowing Beach Sprint Championships 参加報告

東京都ローイング協会 吉野 泰宏

(JARA 公認審判員 B 級No.325/WR Umpire No.1841)

1. はじめに

2025 年 8 月 8 日～10 日にタイ王国パタヤ・ジョムティエンビーチで開催された 2025 Asian Rowing Beach Sprint Championships (以下、ARBSC) に ITO として参加いたしましたので、ご報告いたします。

2. 大会概要

(1) 日程

大会期間：2025 年 8 月 5 日～8 月 10 日（6 日間）, 5 日～7 日が公式練習, 8 日～10 日が競技日程
審判業務は 8 月 6 日～8 月 10 日（5 日間）

(2) 出場国：CHN, HKG, INA, JPN, KOR, KSA, KUW, MAS, PHI, SGP, UAE, UZB 計 13 カ国
15 イベント, 延べ杯数 85 杯, 参加選手数 125 名, 96 レース

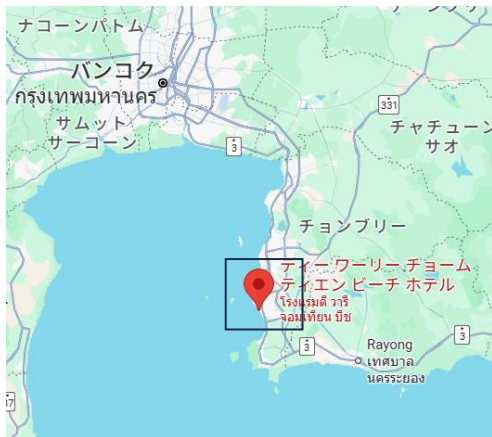
種目 国・地域	CHN	HKG	INA	JPN	KOR	KSA	KUW	MAS	PHI	SGP	THA	UAE	UZB	合計
CM1x	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	12
CM2x	1				1	1	1	1	1		1	1	1	9
CW1x		1	1		1		1	1	1	1	1			8
CW2x					1		1		1	1	1			5
CMix2x	1	1		1		1	1	1	1		1			8
U19CM1x	1	1				1	1				1	1	1	7
U19CM2x						1	1				1	1	1	5
U19CW1x	1	1	1						1		1		1	6
U19CW2x									1		1			2
U19CMix2x	1	1									1			3
U16CM1x		1	1				1	1	1		1	1		7
U16CW1x		1					1	1	1		1			5
U16CM2x								1			1			2
U16CW2x								1			1			2
U16CMix2x		1					1	1			1			4
合計	6	9	4	2	4	5	10	9	9	2	15	5	5	85

表ー1 各国エントリー数

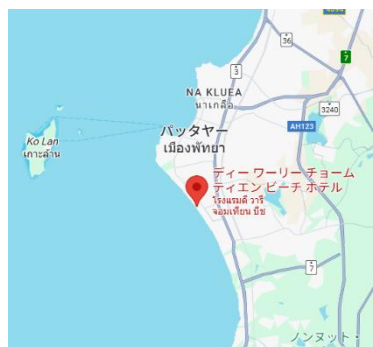
(3) **大会会場**：タイ王国チョンブリー県パタヤ市ジョムティエン・ビーチ
(Jomtien Beach, Pattaya, Chonburi, Thailand)

観光地として著名なパタヤビーチの南方約6kmのジョムティエン・ビーチが会場であった。

各国選手団・役員・IT0・OCの宿舎であるホテル（D Varee Jomtien Beach, Pattaya and Bay Beach Resort）至近の海岸で行われた。（図－1, 2 写真－1, 2）



図－1 会場の位置



図－2 左図拡大



写真－1 ホテルとベニュー



写真－2 海側からベニュー全体を望む（練習日）

(4) **主催**：Asian Rowing Federation (ARF),

主管 (Organizing Committee)：The Rowing and Canoeing Association of Thailand (RCAT)

(5) **審判団 (IT0) 7 名**

名前	WR 番号	国・地域	担当
LERIN Jercyl	1493	PHI	President of Jury
SIU Kin Wah	1228	HKG	Jury
YOSHINO Yasuhiro	1841	JPN	Jury
NAM Sang Ran	1683	KOR	Jury
TUN Bo Bo	1705	MYA	Jury
POCHANASOMBURANA Angela	1818	THA	Jury
THAMTHAVORNVANICH Sittichok	1717	THA	Jury

3. 審判業務経緯

(1) 準備段階

6 月下旬に参加審判に対し、WhatsApp で事前連絡があり、チャットグループの作成が行われ、その後、順次 Bulletin, 同 2 と「審判の携行品リスト」が審判団の WhatsApp チャットグループに通知された。

また 7 月下旬に今大会の審判長 (PoJ) である Jercyl 氏 (PHI) から、「SAFEGUARDING BRIEFING NOTE FOR JURY」がメールで事前送付された。

特にアジア各国から未成年者や様々なバックグラウンドを持つ選手が参加するので、審判員として正しい (適切・公正・公平) 振る舞いをするように厳命された。

これは日本の大会にも反映すべき内容で、大変参考になると感じた。(後掲・p21～p22 参照)

加えて 8 月初旬に Competition Notice が送付された。チームマネージャーミーティングの開催時間や安全上の責任、棄権、会場の利用可能時間、Venue のレイアウト、艇のリギング値、練習時間、航行規則、ブイ配置とレース形態 (タイムトライアルとノックアウト)、2025 年度のルール改正のポイント、プログレッション、選手監視、レーン選択権、チャレンジ、天候予測などが網羅されたものであった。

(2) 現地到着から大会前日まで

選手は 8 月 4 日までに現地到着、審判員は 8 月 5 日現地到着 (帰途は 10 日夜か、11 日) との指示があり、8 月 5 日に成田空港を出発。同日 16:30 (現地時間) にバンコク・スワンナプーム国際空港に到着。OC が手配した車に乗り、大会会場最寄りの宿舎であるホテルに到着。

夜 19 時 30 分過ぎに審判長より WhatsApp にて「OC がトレーニングのスケジュールを変更したので、朝食を済ませて 7:50 にビーチに集合」との指示があった。



写真-3 練習用プールボート (Solo)

また 20 時 15 分過ぎに、Technical Delegates (以下、TD) から、「今日の練習において、レース艇の破損があり、明日の練習は OC が用意した古い艇 (ソロ 4 杯、ダブル 2 杯: 写真-3) に変更となったのと、練習時間を 45 分から 1 時間に変更する」との連絡があった。(図-3)

その後 23 時に審判長から再度連絡があり、翌 8 時の練習開始から練習中の監視と OC の補助を依頼されたため、参加することとした。

2025 Asian Rowing Beach Sprint Championships							
Training Schedule		Date :		6-Aug-25			
	Solo					DOUBLE	
Boat Number	101	103	104	105	Boat Number	201	202
Training Time					Training Time		
08:00 - 09:00	THA	THA	THA	THA	08:00 - 09:00	THA	THA
09:00 - 10:00	KOR	KOR	UZB	UZB	09:00 - 10:00	KOR	UZB
10:00 - 11:00	KUW	KUW	KUW	KUW	10:00 - 11:00	KUW	KUW
11:00 - 12:00	INA	INA	INA	JPN	11:00 - 12:00	JPN	
13:00 - 14:00	KSA	KSA	UAE	UAE	13:00 - 14:00	KSA	UAE
14:00 - 15:00	CHN	CHN	SGP	SGP	14:00 - 15:00	CHN	SGP
15:00 - 16:00	HKG	HKG	HKG	HKG	15:00 - 16:00	HKG	HKG
16:00 - 17:00	PHI	PHI	MAS	MAS	16:00 - 17:00	PHI	MAS

図-3 8 月 6 日分 各クルー練習時間



写真-4 航行ルール図が現地と逆(のちに修正)

4. 審判活動初日（8月6日） ※公式練習日2日目



写真-5 ブイ係留杭の状況

早めに朝食を済ませ、Venue に行っていたところ、TD である Kay Dong Hoon 氏（KOR）と再会。

（Kay 氏とは 2021 年 5 月に東京で行われた東京オリンピック・アジアオセアニア最終予選のときに、同部署（線審）であった。）

Kay 氏によると、「昨日から練習が始まったが、トラフィックルールがわかりにくく、ビーチスプリント自体が初経験というチームやクルーも多く、練習時のトラフィックルールを理解しておらず、コースを逆漕したりしていた。また NTO がおらず、配艇や水上マーシャルができておらず転覆や衝突が発生し、レース艇が破損してしまったため、今日の練習は急遽 OC が用意した古い艇のみで行う形となった。朝が干潮時で干満差が約 4m あり、ブイを係留する杭が砂上に出ており危険。杭頭と水面が同じぐらいの時はブイを設ける。（写真-5）」とのこと。

練習中の監視は「可能な者は参加してほしい」との依頼であったが、今回の審判員全員 7 名が参加し、8 時～12 時、13 時～17 時の間で監視と OC の補助を行った。練習中、沈やあわや接触という場面があったが、特に大きな問題は発生しなかった。（ホテルと会場前の道路で交通事故が発生したため、道路横断時、選手・関係者は注意するように、との注意喚起があった。）

参加チームに対し、「17:10 からスタート練習を行うので、希望するクルーは参加してください。」と急遽連絡があり、開催された。

内容は、スタートのランニングから艇への乗り込みまで（実際に海上を漕ぐことはしない）と、艇を降りてからフィニッシュへ走ってフィニッシュのボタンを押すまでであった。

SGP, PHI, KUW, KSA, THA, UZB（実施順）が参加した。（写真-6）



写真-6 スタート練習に集まった各国選手たち



写真-7 Swift 社のシステム

審判に対しては、Swift 社製のタイミングシステム（写真-7）の概要の説明と、実際に触れて動作確認を行った。

17：30 でスタート練習が終了し、本日の業務は終了。

その後、Jury 間の WhatsApp チャットで、「INA のクルーが練習中に無線通信機器を使っていたので、明日チェックすること。」との通知があった。

5. 審判活動 2 日目（8 月 7 日）※公式練習 3 日目

① 練習時間帯

2025 Asian Rowing Beach Sprint Championships									
Training Schedule		Date : 7-Aug-25							
Boat Number	Solo				Boat Number	DOUBLE			
	101	103	104	105		201	202		
Training Time					Training Time				
08:00 - 09:00	CHN	CHN	SGP	SGP	08:00 - 09:00	CHN	SGP		
09:00 - 10:00	HKG	HKG	HKG	HKG	09:00 - 10:00	HKG	HKG		
10:00 - 11:00	PHI	PHI	MAS	MAS	10:00 - 11:00	PHI	MAS		
11:00 - 12:00	THA	THA	THA	THA	11:00 - 12:00	THA	THA		
13:00 - 14:00	KOR	KOR	UZB	UZB	13:00 - 14:00	KOR	UZB		
14:00 - 15:00	KSA	KSA	UAE	UAE	14:00 - 15:00	KSA	UAE		
15:00 - 16:00	INA	INA	JPN	JPN	15:00 - 16:00	JPN			
16:00 - 17:00	KUW	KUW	KUW	KUW	16:00 - 17:00	KUW	KUW		

本日も練習開始時間が 8 時に変更された。Jury の参加は 14 時からでよいと言われたが、コースの準備状態の確認と見学を兼ねて 8 時に Venue へ。この日はコース（FoP：Field of Play）の調整のため、レーストラックでの練習は不可で、コース左側のアウト・インの練習コースのみ使用可。ブイを一つ増やす措置がなされ、3 レーンとなった。（図-4）使用艇は前日同様、古い艇のみとされた。TD に話を聞くと、ブイ間隔・距離が合っていないため再設置するとのことであった。（写真-8～10）

図 - 4 7 日の練習割当とトラフィックルール



写真-8 ブイの位置決めをする OC と TD



写真-9 ブイ間隔の計測を行う OC と TD



写真-10 ブイを据えなおす OC メンバー



写真-11 ブイ係留用の木杭（干潮時）と日本チーム（6 日撮影）

11:00～12:00 の THA の練習時間において、練習用 Solo 1 杯のフィンがもげた。（原因は海岸に思いっきり突っ込んだため）

14:00～15:00 の練習時間で、KSA の CW2×のクルーが練習中、海岸に着岸し、艇から降りたところ、ブイを固定するための

杭（木杭）で、足の脛を切るケガをした。（写真-11 の丸内の杭・写真の状況は干潮時）

レーストラック内にも杭があり、満潮時に杭頭が見えなくなるため、前日はブイの設置が行われていたが、選手がケガをした杭は、レーストラックと練習水域を仕切るブイの固定用で、注意用ブイの設置がされてなかった。ケガをした選手は、応急処置のうえ救急車で搬送された。

次時間帯の練習の準備で Venue に来ており、一連の同光景を見ていた日本チームから私に「杭にブイか旗でマークしてくれないか」との申し出を受けたので、当方から審判長と OC の責任者に伝えた。



写真-12 ブイの設置（杭は水面下）

OC では杭が完全に砂に埋まるように打設するとともに、ブイを設置した。（写真-12）

今日の練習でのトラフィックルールは、ブイに向かって3レーンがストレートアウト・ストレートインのみで、レーストラックのように周回することは認められていなかったが、守らない（理解していない？）クルーが続出し、日本の練習時にも同時間の「PHI クルーが危険」との申告が日本チームから当方にあり、OC に対し、チーム関係者に注意をするよう依頼した。

前日同様、「17 時からスタート練習を行う」と連絡があり、練習開始前に審判員全員でビーチのごみ拾いを行った。また、OC のボランティア、ボートヘルパー（タイ海軍の若い兵士）へのレクチャーを行った。（写真-13）

審判員もタイミングシステムの動作確認を兼ねて発艇号令の練習をした。

この日の参加国は THA, SGP, KUW の3カ国で、U19・U16 の選手が主であった。（写真-14）



写真-13 ボートヘルパーへのレクチャー



写真-14 スタート練習の様様

② チームマネージャーミーティング（TMM）

18:00 よりホテルの会議場で、チームマネージャーミーティングが開催された。

参加全クルーのチームマネージャー、OC 代表、TD、審判長が登壇し、全審判員が傍聴した。（写真-15）

RCAT 会長の歓迎の挨拶の後、ARF 会長の Mr. Chen から以下の挨拶があった。

- ・ビーチスプリントはまだ歴史が浅く、経験が少ない。
- ・素晴らしい会場でレースができること、すべてのボランティア・関係者に感謝する。
- ・全ての選手に最高のパフォーマンスを発揮してほしい。最高の思い出をつくってほしい。
- ・チームマネージャーには最も安全に注意を払ってほしい。既にアクシデントが発生している。これ以上発生させないように。



写真-15 チームマネージャーミーティング

また TD から以下の発言があった。

- ・サウジアラビア (KSA) クルーのケガについては申し訳ない。ARF のイベントで二度と起こさないように注意する。
- ・出席確認の後、タイムトライアルのドローを行う。PC 画面の抽選で行う。(写真-16)

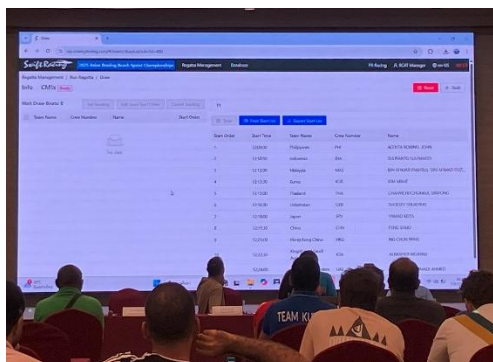


写真-16 ドローの様様

- ・スタートタイムを 11 : 00 に順延する。潮汐の関係で時間変更する。
- ・明朝、ビーチの長さとブイの位置を適時確認する。ブレイクタイムの中で調整する。
- ・明日以降のチームマネージャーミーティング (TMM) はレース終了後 30 分後から行う。
- ・明日以降は当初予定よりすべて 1 時間遅れで実施する。
- ・タイムトライアルは 1 つのフィニッシュボタンを使用、ノックアウトは 2 つのボタンを使う。フィニッシュ時に違うレー

ンのボタンを押したら DNF とする。

- ・レーンセクションは各自のレースの 10 分前までに行う。
- ・各自のレース 1 時間前までに Control Commission に来て、AD カードとユニフォームをチェックする。
- ・最終日は悪天候が予想されているので、クルーでも気象情報を確認しておくこと。
- ・レーススケジュールの変更がある可能性があるので、注意すること。

続いて審判長から以下の発言があった。

- ・ビーチスプリントについては今年 3 月に WR のルール改正があった。今大会は WR のルールに則って行う。チーム用の WhatsApp チャットにも送ってあるので、確認しておくこと。
- ・新ルールでは、ブイを回る方向を間違えた場合、DNF に変更された。(タイムペナルティー 30 秒加算は廃止された。)
- ・レーンフラッグの回る方向を間違えた場合は、タイムペナルティー 10 秒加算。
- ・スタート時、ランナーは、タイムトライアルではフラッグを回る。ノックアウトでは直接艇に走る。
- ・チャレンジは 1 回限り。(成功した場合は権利が残るが、失敗の場合は権利を失う)
- ・無線通信機器は使用しないように。
- ・OC のボートヘルパーは、艇の運搬を手伝うだけで、艇をキャッチしてはいけない。

一連の説明が行われた後、質疑応答に移った。

<質疑応答>

Q : レース後のトレーニングはできるか。(SGP)

A : 不可。

Q : プロセッショナル・タイムトライアルの使用艇は何杯か。(KUW)

A : 6 杯を使う。ボートハンドラーの役割はルール通り。

Q : バックアップタイムはマニュアルか。(UAE)

A : マニュアルで取る。

Q : ID チェックの際、パスポートは必要か (UAE・JPN)

A : 不要。AD カードのみでよい。

Q : 貸出オールの前備はないか。(KSA?)

A：今日 1 日で 6 本が折れた。注意して使ってほしい。

Q：オールを使いまわすことで不利にならないか。(KSA?)

A：全艇分の数のオールは用意してある。

Q：シートレールの調整はできるか。蓋を開けて調整してよいか。(JPN)

A：今大会は調整することを認める。

Q：ボートハンドラーの数は。結構波があったが。(不明)

A：ボートハンドラーの数は 2 名に限る。

質疑応答は以上で終了し、0C から「WhatsApp チャットグループの情報を確認するように」との話があり、18：44 に終了した。

③ Jury Meeting

そのまま会議場で 18：50 から Jury Meeting を開始した。

TD の Kay 氏も参加し、「チームワークで乗り切ろう」との話があった。

また、「ビーチスプリントはクラシックローイングとは異なり、とても短い時間で終わるから、たくさんの目でレースをチェックするように。」

「10 時 50 分が干潮なので、汀線を考慮して、スケジュールをすべて 1 時間遅らせた。」とのことであった。

続いて PoJ の Jercyl 氏から以下の話があった。

- ・明日は 9 時に Jury Meeting を行い、9：30 に配置完了。10 時に CC の受付開始。レースが終わったら TMM に参加すること。
- ・Challenge Umpire は重要である。ビーチスプリントは判断するのに時間がない。速やかに裁定を下すこと。場合によってはビデオを見る。
- ・CC も忙しい。ユニフォームも確認すること。FoP を見て問題がないか、見ておくこと。
- ・選手がダイブするので、砂浜に危ないものがあったら拾うこと。
- ・日本チームから、「ユニフォームの名前と国名の位置が上下逆になっている」という申告を受けたが、不問とする。このレガッタでは厳しく取らない。
- ・ノックアウトの時、ボートヘルパーが正しいボートを運ぶようにチェックすること。
- ・FoP に部外者を立ち入らせないように、注視すること。
- ・私から質問として、「チャレンジカードは、リアルカードなのか」と聞いたところ、「リアルカードではないので、どのクルーが Challenge に来たのか、必ずメモしておくこと。」との話であった。
- ・(レースが最短は 5 分間隔のため) ボートをチェックする時間が 4 分程度しかない。クルーにあてがわれている艇がどれか、艇にダメージがないか、他のポジションの審判もフォローしてほしい。周囲のポジションの審判もフォローしてほしい。周りもよく見るように。
- ・また、雷雨が予想されているが、雷鳴・雷光を確認したら、即対応するように。また、速やかに退避行動をとること。
- ・Race Umpire は、Lane Umpire が NTO なので、艇がライン上に来るようにレクチャーすること。
- ・最後に PoJ から「一人の眼で見れる範囲は限界があるが、今回は私以外に 6 人の審判がいるので、12 の眼でレース全体を見よう。みんなで頑張って乗り切ろう。」との話があり、Jury Meeting を終了した。

6. 審判活動3日目（レース初日：プロセッション・タイムトライアル（TT））

この日の審判員の部署配置は以下の通り。

名前	配置（終日）
Jercyl Lerin	President of Jury
SIU Kin Wah	Starter
YOSHINO Yasuhiro	Challenge Umpire
NAM Sang Ran	Judge at the Start
TUN Bo Bo	Race Umpire
POCHANASOMBURANA Angela	Control Commission
THAMTHAVORNVANICH Sittichok	Finish Judge

CC Lane Selection, Lane Umpire1, Lane Umpire2, Turning Mark Umpire は現地 NTO。

Challenge Panel は、Jercyl Lerin, SIU Kin Wah, Dong hoon Kay の3名が指名された。（図-5）



私は Challenge Umpire となったが、レース開始までは業務がないため、CC が AD チェックで混み合うので、フォローすることとなった。

CC にて、KUW のチーム関係者から問い合わせがあり、「タイムトライアルで、インナーゾーンに入ったらペナルティーか？」と「ボートハンドラーは2人だが、U16 のクルーには艇が重いので、運搬を手伝ってよい

か。」との問い合わせがあり、「審判の判断によるが、状況によってはペナルティーとなる」「手伝ってもよいが、ハンドラーは2人。OC のボートヘルパーがいるので、それに手伝ってもらうこと」と回答した。

PoJ に「インナーゾーンに入ってもノー・ペナルティーではないのか」と確認したところ、「審判の判断によるが、風や波の影響でやむなく入ることもあるが、故意に入って自己を有利にする場合もあるので、審判からは「ノー・ペナルティーである」とは断言しないこと」とアドバイスされた。

① レース中の出来事

タイムトライアルの出漕順を昨晚の TMM で抽選し決定の後、MAS のチームマネージャーから「MAS の U16, U19 のクルーはビーチスプリント初経験であり、漕技未熟であるので、各レースの最後の出漕にしてほしい。」との申し出があったとのことで、出漕順が変更されていた。

- ・レースNo.3 U19 CM1× TT の1番目 THA は、スタート時、レーンフラッグの回る向きを間違えて、タイムペナルティー10秒加算。
- ・レースNo.5 Open CM1× TT の3番目 MAS のクルーが大きくコースを外れ、4番目の KOR クルーと2番目のブイ付近で衝突。KOR クルーは沈。KOR クルーはレスキュー艇にて救助された。
即座に KOR のチームマネージャーから「どのような裁定になるのか。Re-Row させてくれ」との申し出があり、Challenge Panel member での協議の結果、「MAS は安全上の問題から EXC（除外）とし、KOR クルーについてはこの TT の最後（13番目）に Re-Row とする」ことを決定し伝達した。本決定について両チームから異議は出なかった。
- ・レースNo.8 U19 CW2× TT の2番目 MAS は2番目のブイを正しく回れず DNF。

- ・レースNo.10 U19 CW2× TT の2 番目 PHI は、ボートハンドラーが3 人いたが、見落としてしまった。
- ・レースNo.12 Open CW2× TT の5 番目 THA は、ボートハンドラーが3 人いた。(次のレースも THA であり、その者がオールを押さえていた。)
- ・レースNo.14 で TT はすべて終了。

② チームマネージャーミーティング

15：37 より、チームマネージャーミーティングが OC ルームで行われた。(写真-17)



写真-17 チームマネージャーミーティング

TD より

- ・初日のレースが終了できて、感謝する。
- ・波の状況も穏やかであった。
- ・CM1×の MAS と KOR の接触の件については、MAS クルーは経験が少ない。インナーゾーンでの衝突であり、各クルーも注意してほしい。
- ・私たちの判断としては、安全が最も重要であり、MAS クルーについては接触を引き起こしたことから、安全上の観点から「除外」とした。

- ・明日のレースは 11 時～15 時の予定。

PoJ より

- ・ボートホルダーは2 人のみである。3 人いることがあったが、ラフコンディションでない場合、増員は認めない。

<質疑応答>

Q：TT での艇の置場が狭い。オールが当たってしまい、リギングチェックができない。

A：明日からは艇の置き方が変わるので、問題ない。

Q：レース後の練習はさせてもらえるか。

A：レース後の練習は不可である。

Q：陸での走路が狭い。他のレースではもっと広い。改善を。

A：検討する。

最後に、MAS のチームマネージャーから、接触事象に関してのお詫びがあった。

TD より、「明日からは各自のレースの 10 分前にレーンセクションに来ることを忘れないように」との話があり、終了した。

③ Jury Meeting

- ・初日、終了できた。感謝する。
- ・CC が大変だったと思う。
- ・明日からは艇の配置が変わる。レーンセクションが始まるので、クルーと、あてがわれた艇が合致しているかをチェックしてもらいたい。
- ・リギングは禁止である。不審な行動がないかチェックをしてほしい。
(数チームが、オールロックのナットの位置を変更していた。)
- ・NT0 にビーチスプリントの経験がないので、NT0 への指導をお願いしたい。

7. 審判活動4日目（8月9日 レース2日目：敗者復活戦（R）・予選（H）・準決勝（SF））

この日の審判員の部署配置は以下の通り。

名前	配置（前半）	配置（後半）
Jercyl Lerin	President of Jury	President of Jury
SIU Kin Wah	Control Commission	Control Commission
YOSHINO Yasuhiro	Finish Judge	Race Umpire
NAM Sang Ran	Race Umpire	Finish Judge
TUN Bo Bo	Challenge Umpire	Challenge Umpire
POCHANASOMBURANA Angela	Starter	Judge at the Start
THAMTHAVORNVANICH Sittichok	Judge at the Start	Starter



CC Lane Selection, Lane Umpire1, Lane Umpire2, Turning Mark Umpire は本日も現地 NTO が対応。

Challenge Panel は、PoJ、私、Sittichok の3名が指名された。（図－6）

10時より、審判ブリーフィングを実施。

その内容は以下の通り。

図－6 Challenge Umpire と Challenge Panel

- ・昨日はレース1時間前のCCのチェックが大変。クラッシュローイングでは各自のレースの50分前にポンツーンで監視を受けるが、コースタルは違うので、理解しておいてほしい。
- ・昨日のレースでのルール違反はなかった。異議申し立てや抗議があったら、個々で判断すること。（いちいちPoJに聞かなくてよい）その判断についてクルーが不服な場合は、選手やチームがChallengeしてくる。
- ・リギングの変更は一切不可。調整を変えたらタイムペナルティー30秒加算となる。（昨日はオールロックのナット部を調整していたチームが数件あり。）
- ・Race Umpire はレースが問題なく終了したら、白旗を挙げる。昨日のような接触が発生したら、速やかに判断してEXCかRe-Rowかを決めること。
- ・なにかあったらすぐに報告すること。
- ・FoPに外部の人間や、撮影したい応援者などが立ち入らないように注視すること。
- ・レーンセレクションが始まるので、注意すること。

私から質問として、

- ・昨日のようなコースを大きく外れるクルーや、衝突の可能性がある場合、陸から「止まれ」という指示をしてもよいのか。
- それはやらないように。Turning Mark Umpire か水上のレスキューが声をかける。

① レース中の出来事

10:30に部署配置完了。12:00よりレース開始。

- ・レースNo.17 U16 CM1 × R MAS/SGP Lane 1のMASが大きく蛇行。2番目のブイを回り間違えそうになるが、戻って問題なし。

- ・レースNo.19 が終わった段階で、岸から 2 番目のブイがずれており、「ブイ位置調整のためレースを 20 分遅らせる」との案内があり、以降順延。
- ・レースNo.21 U19 CM1× R KUW/KSA Lane1 の KUW が 2 番目のブイを正しく回らず DNF。
このクルーがターニングマークブイを回ったあと、かなり蛇行をしていたが、ターニングマークアンパイアの NTO が白旗を振って漕ぐ方向を指示していたので、PoJ に伝えて止めさせた。
- ・レースNo.23 U19 CW1× R UZB/PHI Lane1 の UZB クルーがフィニッシュ時に Lane2 のレーンフラッグを回ってしまい、やり直してフィニッシュ。(結果は敗退)
- ・レースNo.28 Open CM1× R KUW/PHI Lane1 の PHI が 1 番目のブイを正しく回らず DNF。
- ・レースNo.30 Open CM2× R MAS/PHI レース終了後、敗退した Lane2 の PHI が Challenge をしてきた。速やかに Challenge Panel が招集され、Race Umpire から内容を聞くと、「2 レーン側の走路が狭い。次のレース用のボートが邪魔をしていて、満足に走ることができなかった。」というものであった。Challenge Panel の議論としては、昨日までのレースと条件が違っていないこと、本日これまで実施された他のレースのクルーからの異議はないこと、たまたま Judge at the start の審判員が動画を撮っており、走れないほど狭いという状況ではないことから、この PHI クルーからの Challenge については「Reject」(却下) することで最終決定し、クルーに通知した。
- ・レースNo.32 U16 CMix2× H より男女混成種目になるので、スタート時のランナーとフィニッシュ時のランナーの性別が異なっている必要があるため、性別を確認しておく必要があるのではないかと PoJ に具申し、PoJ より各審判員に伝えられた。
- ・レースNo.34 終了時、TD から「使用艇のリギング確認を実施するため、レースを 40 分遅延する」とのアナウンスがあった。内容としては、リギング禁止となっていたが、リガーのハイトが変えられていたこと、また C ワッシャーが動かされていたことが判明したため、使用艇全艇のチェックと再調整をすることとなった。(艇置場に ITO や NTO の配置はなかった。)

この際、KSA や UAE のチーム関係者からレース再開の時間の目途を聞かれたため、「すでに 20 分程度遅れていて、これから 40 分順延なので概ね 1 時間程度遅れの見込みだが、変更になる可能性もあるのでアナウンスに注意してほしい」と伝えた。また会場のアナウンスでも同様の内容が放送されていた。
- ・全艇のリギング確認が終了し、レースNo.35 が 47 分遅れの 15 : 00 から再開。
- ・レースNo.39 U16 CM1× FB HKG/INA Lane2 の INA が 2 番目のブイを正しく回らず DNF。
INA が先着していたが、INA は 4 位となり、HKG が銅メダル獲得となった。
- ・レースNo.40 U16 CM1× FA THA/PHI 次のレースNo.41 に出漕する THA の関係者が応援していて、FoP に 3 名以上がいる状態になっていた。
- ・レースNo.43 U16 CW1× FB KUW/SGP レースNo.41 の SFAB1 (KUW/THA) で敗れた KUW クルーが、「3minutes」のコールをしても Venue に現れず。会場内の放送でも何回も KUW クルーに呼びかけたが、現れなかったため DNS として SGP の独漕でスタートさせた。当該レース終了後、まもなく KUW チームとクルーが CC に現れ、激しく抗議を受けた。(写真-18)
結果として受け入れられず、DNS (FB に進出しているため 4 位) とされた。
抗議の内容としては、「レース再開時刻の案内が WhatsApp に知らされていないかった。」というものであった。他のチームは誰かしら Venue にいたが、KUW クルーは遅延を見越して、全員がホテルに戻っていた模様。



写真-18 抗議する KUW チーム関係者

クルーの U16 女子選手が落胆して泣いていたのを見たのは可哀想ではあったが、致し方ないことであった。

- ・レースNo.51 U19 CW1× FB から急に風が強くなり、海が荒れだした。

- ・レースNo.52 U19 CW1× FA CHN/INA Lane2 の INA が 1 番目のブイを正しく回らず DNF。FA だったので、2 位となった。

以上でこの日のレースは終了。

② チームマネージャーミーティング

17:30 より、TMM が OC ルームで行われた。

TD より、

- ・レーススケジュールが遅延してしまったが、無事に終了でき、感謝する。
- ・2 回、中断を設けてしまったが、1 回目はブイがずれた。朝には揃えたが、Lane2 の 2 番目のブイがずれてしまった。2 回目はレース艇のリギングが変えられていたのに気が付いたので、レースを中断して、元のリギングに戻した。明日は絶対にリギング変更を行わないように。
- ・明日は潮汐の関係から 12:00 スタートとする。潮の高さもよいはずである。明日は多くのレースが行われるので、各クルーともベストを出せるように願う。

PoJ より

- ・無事終了できて感謝。
- ・審判が少なくて申し訳ない。
- ・艇のリギングは絶対に変えないこと。

OC より

- ・明日は雷雨が予想されている。レーススケジュールが変更になるかもしれないので、誰もが部屋に戻らないように。WhatsApp で情報は流す。

<質疑応答>

Q: シートの高さが練習艇とレース艇で違いすぎる。交換できないか。U16 とか U19 では高さが合わなかった。(KSA)

A: シートの交換はしない。シートパッドの使用は認めているので、それで調整するように。

UAE のチームマネージャーより、レースが無事に終了したことについて謝辞があった。

TMM 終了後、KUW の関係者より、「Result を見ると DNF となっているが、4 位ではないのか」との指摘があった。結果としては、Result sheet の作成ミスであった。(FB に進出しているの、4 位が正)

また当方に対し JPN チームの方から、「レースNo.43 での KUW クルーの DNS の経緯を教えてほしい」との申し出があったので、上記経緯を説明した。

8. 審判活動5日目（8月10日 レース3日目：最終日 準々決勝(QF), 準決勝(SF), 決勝(FB・FA)）

この日の審判員の部署配置は以下の通り。

名前	配置（前半）	配置（後半）
Jercyl Lerin	President of Jury	President of Jury
SIU Kin Wah	Finish Judge	Race Umpire
YOSHINO Yasuhiro	Starter	Judge at the Start
NAM Sang Ran	Judge at the Start	Finish Judge
TUN Bo Bo	Race Umpire	Starter
POCHANASOMBURANA Angela	Challenge Umpire	Challenge Umpire
THAMTHAVORNVANICH Sittichok	Control Commission	Control Commission

CC Lane Selection, Lane Umpire1, Lane Umpire2, Turning Mark Umpire は本日も現地 NTO。

Challenge Panel は、PoJ, NAM Sang Ran, Jirawat Wongsriratanakul の3名が指名された。

本日も10時より、審判のブリーフィングを実施。その内容は以下の通り。

- ・艇のリギングを変えられないように。レースから艇が戻ってきたら必ずチェックをしておくこと。
今日はNTOも配置されると聞いている。損傷の有無とリギングの変更がないか見てほしい。
- ・CCはとても大変である。ミスの無いようにしてほしい。



写真-19 ホテルから見た Venue 全景（移設前・TDより）

- ・レーンセレクションでクルーが取ったレーン優先権は、艇には表示されないの、あてがわれた艇にクルーが正しく乗っているか、チェックをするように。
- ・TDより、昨日のChallengeについて、「走路が狭い」という話があったので、Swiftのテントが邪魔なので移設した。（写真-19参照）
- ・NTOがルールを知らない。Race Umpireはコースをよく見て、DNFの判断をすること。

① レース中の出来事

12:00よりレース開始。当方はスターターとして配置。

- ・レースNo.53 Open CM1×QF CHN/KUW 当方が誤ってタイミングシステムのリセットボタンに触れてしまい、タイムが消えてしまった。NTOがバックアップタイムをマニュアル（ストップウォッチ）で取っていてくれて、事なきを得たが、「絶対に触るな」と厳しく注意された。
敗退したKUWクルーからChallengeがあった。内容は「CHNのボートハンドラーが、艇が着岸する前に（早く）艇をキャッチした。」というもの。Challenge Panelでの議論では、（各レーンに設置されているビデオの録画も確認したうえで）あくまでも安全上行われたものであり、故意的に着岸前の水上で早くキャッチしたものではないとの判断から、当該ChallengeはRejectされた。
- ・レースNo.54 Open CM1×QF2 JPN/KOR フィニッシュに配置してある電光式のタイム表示が、レーンが逆に表示されており、タイミングシステムのリザルトも逆に表示される不具合が判明。システムの配線をやり直すことになり、レースNo.55以降が遅延。（原因は配線の接続間違いであった。）

- ・レースNo.59 Open CM1× FB JPN/KSA 3位・4位決定戦であったが、JPN 山尾選手が、体調不良（熱中症気味）で棄権した。相手である KSA クルーが、「漕がなくてもよい」と勘違いしオールを片付けていたが呼び出し、「漕がないと順位が付かない」と説明し漕がせたため、レースが遅延した。
- ・レースNo.64 Open CW1× QF4 が終了した時点で、TD から、「ブイを修正するのでレースを 15 分中断する」との連絡。もともとは THA のチーム関係者から「ブイがずれている。このままレースをさせたら Challenge する」との申し入れがあった。TD は「波や風の自然現象の影響であり、許容範囲である」との話であったが、最終的にはブイを修正することとなった。
- ・レースNo.72 U19 CM2× FA THA/UZB のレーンセクションにおいて、レーン選択権に誤りがあるのではないかと指摘があった。Swift の責任者らしき人物が、「システム上に間違いはない」と主張していたが、WR の最新ルールと合致していないのではないかと懸念した。（詳細はわからず）
- ・レースNo.73 で審判部署変更。（私は Judge at the Start に）



写真-20 同着のタイム(2分37秒69)

- ・レースNo.80 Open CM2× FB UZB/KOR 大接戦のうえ、同着 (Dead Heat・写真-20)に。両クルーに銅メダル。
- ・レースNo.86 U16 CMix2× FB MAS/KUW MAS が 2 番目のブイを正しく回らず DNF (4 位)
- ・レースNo.90 Open CMix2× QF2 KUW/KSA 敗れた KUW のクルーが、スタートランナーとフィニッシュのランナーが同一人物（ストロークの女性）であったため、本来ならば DNF だが、敗退が決定していたため、不問となった。
- ・レースNo.92 が終了した時点で、再度ブイ調整のため 30 分延期するとのアナウンスがあった。
- ・レースNo.95 Open CMix2× FB JPN/THA JPN クルー（山領・是谷組）が 2 番目のブイの周回時にミス。回り直した。スタートでリードしていたため、大変残念であった。（4 位）
- ・レースNo.96 で、全日程のレースが終了した。（概ね 1 時間遅れ）

② レース後



写真-21 メダルセレモニーの様相

そのまま、会場でメダルセレモニーが開催された。PoJ がメダルプレゼンターとして登壇された。（写真-21）

私は帰国便の都合があり、18:30 に現地を離れなければならなかったため、審判のメンバー（写真-22）に謝辞を述べて、メダルセレモニーの途中で離脱。空港に向かい帰国の途についた。



写真-22 今回の審判団 7 名

【参考1】大会を通じての雑感

(1) ルールの認知がされていない。(2025年3月改正の内容を含む)

※日本チームは熟知しており問題なし。

- ・今年の3月に改正されたルールが浸透していない。特にブイの回る方向を間違えた場合、タイムペナルティーであると思っていたクルーが多く、「DNFに変わった」と再三説明していた。
- ・また、ボートホルダーの性別を変える（男女各1名）ということを守っている国が少なかった。
- ・プログレッション（レーン選択権）の優先順位の考え方
準々決勝に予選で上がったクルーと、Repechageを経由したクルーの優先権
ファイナルエイトに残った場合のレーン選択権の優先順位（勝ったクルーかつタイムが速いクルー）
- ・号令の「Put the boat ON the water」

(2) 会場の潮汐差によるコンディションの違い

海岸の干満差が大きく、午前と午後では全く違うコースであると感じた。（写真-23）

干潮時は遠浅であり、午前ではランニングの距離が著しく長い。満潮時は水面が約4メートル高くなるため、午後になると砂浜の勾配が陰しく、水深が深くなる特徴があり乗艇が難しくなるコースコンディションであった。



写真-23 午前のレースの汀線

(3) 中東勢の熱量と冷め方のギャップ

中東勢のビーチスプリントに賭ける熱量は並々ならないものがあり、ジュニアクルーからシニアまで練習からレースまでの熱の入りようが凄まじかった。ところがレースで艇差がつき、勝てないと思うと、まったく真剣に漕がない・走らないのはお国柄なのかと思った。

(4) ランニングから乗艇までと、着岸して降艇からランニングのスキル練習

練習日には、多くの国が乗艇と降艇のスキル練習を長時間繰り返していた。また各国とも外国人コーチを招聘して強化に取り組んでいる模様であった。

(5) ビーチ清掃

レース前や空き時間には審判でビーチのゴミ拾いを行った。（写真-24, 25）



写真-24 ゴミ拾い中



写真-25 割れたビンなど

今回の Venue はレース時間外には部外者が自由に立ち入れるようになっており、ゴミ等も放置されていた。選手がランやダイブするところなので、こまめにチェックする必要があると感じた。（割れたビンの破片やプラスチック片があった。）

暑い中でも、選手だけでなく、審判も素足や脚の露出は避ける必要があると感じた。

【参考2】使用機器類と配置



写真-26 タイミングシステム筐体

Swift のタイミングシステム (写真-26, 27)

セッティングはSwift のスタッフが実施。審判は操作のみ。



写真-27 操作ボタン類



写真-28 スタートのランプとスピーカー

＜操作方法＞

線審が白旗を掲げたら、スターターは Alignment ボタン（白）を押す。

※白ボタンを押さないと、赤ボタンを押しても動作しない。

「Get Ready, Attention!」の号令後、赤ボタンを押すと、ランナーの前のディスプレイ(写真-28)に赤ランプが表示。明瞭な間をとった後、緑ボタンを押すと、ランナー前のディスプレイに緑ランプが表示される。同時にスタートのブザー(写真-28 上部のスピーカー)が鳴り、計時が開始される。

電光計時のタイムとフィニッシュのボタン(写真-29)。ボタンは砂中に埋設する。選手がボタンを押すと計時が止まり、レーススケジュールが登録されている PC(写真-30)にタイムが表示される。ブイ周回のミスなどもこちらに入力する。

PC 上で承認すると結果が印字される。

フィニッシュ後、一定時間を経過すると、計時は自動リセットされる。(リセットボタンを触れなくてもよい)



写真-29 計時とフィニッシュのボタン

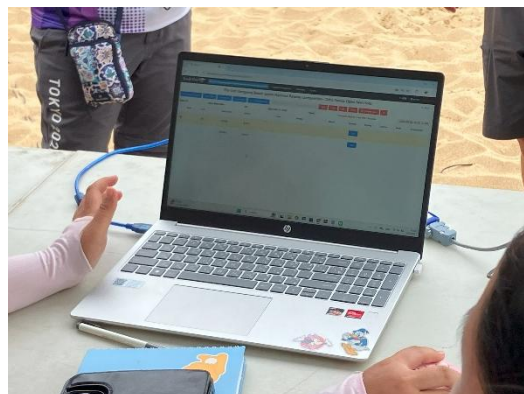


写真-30 タイミングシステムの PC

【参考3】 タイミングシステム・リザルトシート印刷等の配置



写真-31 タイミングシステム等の配置

スターター、PoJ、チャレンジアンパイアと同席していた場所の隣に、タイミングシステム担当の NT0 が配置されていた。(写真-31)

その奥は CC とレースに出るアスリートの待機場所になっていた。

スターターの台が用意されていたが、PoJ や CC の位置からコース（海側）が見えないとの理由で使われなかった。

【参考4】 プールボートとプールオール



写真-32 プールボート置場



写真-33 プールオール

練習艇は Solo が 4 杯、Double が 2 杯。レース艇は Solo が 6 杯、Double が 6 杯であった。

オールは持参する国もあれば、すべてプールオール使用の国もあった。オールのシャフトはソフトとハードが混在しており、特に配慮されている感じは受けなかった。(写真-32, 33)

【参考5】Lane Umpire の配置状況



写真－34 Lane Umpire 1



写真－35 Lane Umpire 2

Lane Umpire は現地の NT0 だった。連日同じメンバーだったので、日を追うごとにスムーズになった。

【参考6】

5 日目の夜に OC 主催の食事会が催され、ITO、TD もお誘いいただき、OC メンバー（NT0 含む）も参加して懇親を深めた。タイ協会の事務局長（Capt. Wiwat Khwansoongnern 氏：写真－36）は海軍の方で、以前、東京の大使館に赴任されていたとのこと。



写真－36 タイ協会事務局長さんの挨拶



写真－37 タイの地元料理の数々

【参考7】

本大会では日本チームの山尾選手・是谷選手の所属団体であるトヨタ紡織株式会社のタイ現地法人の皆様が、遠路バンコクから応援に駆けつけてくださっていました。（写真－38）有難うございました。



写真－38 トヨタ紡織現地法人の皆様と選手

9. 終わりに

今回、このような機会をいただいた日本ローイング協会国際委員会、審判委員会の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また今回出場された日本代表の選手・コーチ・スタッフ、コースタルローイング委員会の皆様に重ねて御礼申し上げます。日本人の審判員として、少しでもクルー・チームのお役に立てたならば幸いです。

また今回の大会派遣に先立ち、7月の鳥取県岩美町・東浜海水浴場での日本代表選考会ならびに Beach Sprint Games で審判業務を経験させていただいたことは本当に役立ちました。受け入れていただいた鳥取県ローイング協会をはじめ関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

ビーチスプリント種目は 2026 ユースオリンピック、そして 2028 ロサンゼルスオリンピックでのローイング競技の正式種目に採用されたことから、各国の力の入れ方も大きく変わっているように感じました。今回、日本チームは惜しくもメダル獲得はなりませんでした。今後の大会での活躍を祈念しております。

また審判員としては改めてルールの習得と実践の必要性を実感するとともに、コースタルローイングの審判業務についても普及を図っていく必要があると強く感じました。今後、審判員研修会など様々な機会を通じて、コースタルローイング、ビーチスプリントの審判業務の周知も図ってまいりたいと考えております。

以 上



写真-39 今大会の OC Reader, TD, ITO メンバーと（左から 3 人目が私）

SAFEGUARDING BRIEFING NOTE FOR JURY

2025 ASIAN ROWING BEACH SPRINT CHAMPIONSHIPS

This briefing note aims to remind all appointed umpires of their safeguarding responsibilities while officiating at the 2025 Asian Rowing Beach Sprint Championships. Given the involvement of junior athletes and the diverse backgrounds of participants from across Asia, we must ensure the highest standards of conduct, safety, and professionalism. Please note that this safeguarding guidelines apply to all athletes, especially minors (under 18), and everyone involved.

KEY RESPONSIBILITIES AND BEST PRACTICES

1. Maintain Professional Boundaries

- Interact with athletes, especially minors, only in your official capacity as jury/umpire.
- Be respectful, fair, and impartial at all times.
- Use clear and appropriate language; avoid jokes or comments that could be misunderstood.
- Avoid any physical contact unless absolutely necessary for safety.

2. Be Visible – Public Settings

- Always try to avoid being alone with an athlete, especially a minor. If a conversation is necessary (e.g. safety issue, sanction, etc), do so:
 - In a public area
 - With another jury / official or coach present
 - Or within a clear view of others

3. Communicate through Coaches or Adults when Appropriate

- For serious issues, involve a coach or team official.
- Use official communication channels.

4. Know How to Report Concerns

- Be familiar with who to contact if you see or hear something concerning.
- Report any incidents quickly, even if they seem unimportant.

5. Respect Athlete Privacy

- Do not enter locker rooms or changing areas.
- Do not take photos or videos of junior athletes without permission from event organizers.

DON'Ts

1. Don't Make Physical Contact (Unless Safety-Critical)

- Avoid any unnecessary physical contact.
- If physical contact is absolutely necessary (e.g. helping an athlete in distress), do so with care, and explain your actions clearly.

2. Don't Engage in Personal or Private Conversations

- Avoid chatting informally about non-regatta-related topics.
- Don't ask personal questions or engage in banter that can be misunderstood.

3. Don't Photograph minors unless it is part of an official role and with proper consent.

4. Don't Allow Rule-Bending for Juniors

- Treat juniors fairly, but don't lower safety or competition standards just because they are minors.
- Instead, take time to explain decisions clearly and patiently if needed.

REMINDERS

- Always act in a way that protects the athlete **and** yourself.
- If unsure, ask the event Safeguarding Officer for advice.
- Safeguarding is everyone's responsibility.

Prepared by:
Jercyl Lerin
PoJ, 2025 ARBSC